

20117

循環器専門病院の強みを生かしたフットケアチームの取り組み

【背景】フットケアは重症虚血肢に対するチーム医療であると理解されている事が多い。循環器専門病院の当院では、末梢循環障害から下肢に潰瘍ができ疼痛に悩む患者や壊死になり切断の為に転院する患者が多い。昨年度より末梢血管外科医の赴任を機に治療の幅が増えた。同時に当院の強みを生かして動脈・静脈・リンパを含めた下肢脈管疾患を対象と捉えチームを立ち上げ活動しているので報告する。

【実施】末梢血管外科医師を委員長とし、各部署から2~3名選抜。多角的に治療を推進するために原則月1回はチームでの会議を行った。静脈瘤、弾性ストッキング、手術についての学習会を行い、パスの作成を行った。TBI(toe brachial pressure index)・SPP(skin perfusion pressure)など新規導入検査についてはフットケアチームメンバー(FTM)から職員への学習会を行った。腹部大動脈瘤については、全身麻酔から静脈麻酔の変更に伴いパスの変更を行った。

【結果】FTM から病院全体への啓蒙活動を行い活動内容が重症下肢虚血だけが対象ではないことは認識された。パスの見直しにより静脈瘤焼灼術の入院が1泊から日帰りに、腹部大動脈瘤ステントグラフト術の入院期間が7日から4日へ短縮することが出来た。

【総括】患者が来院し検査・手術を行うまでの流れは確立できた。今後の課題は、各部署統一したケアが提供できるようFTM が計画の立案、技術指導・伝達を行うこと。また、地域連携パス作成を作成し主治医や地域の訪問・透析看護師等と情報共有を図ることである。